

特定非営利活動法人

# こどもNPO



## Annual Report 2017

## こども×おとな=未来

特定非営利法人こども NPO の活動の目的は、子どもの生きる権利・育つ権利・守られる権利・参加する権利を基盤とし、子どもが社会に参画する場や機会をつくり、子どもとおとなが持続可能な社会を実現することです。

持続可能な社会の構築のためには、社会を構成する多様な人々が相互に対等な関係を築くこと、それぞれが自らのことを自らで考え、自らで決め、自覚と責任を持って意思表示ができること、そのうえですべての人々が尊重される意思決定を多様な人々とともに考えられる環境が必要です。私たちこども NPO が子どもたちを対象として社会参画を重点に活動するのは、こうした環境を子どもたちと一緒に築いていくことが持続可能な社会を体現し、より実現へと近づける道だと考えるからです。

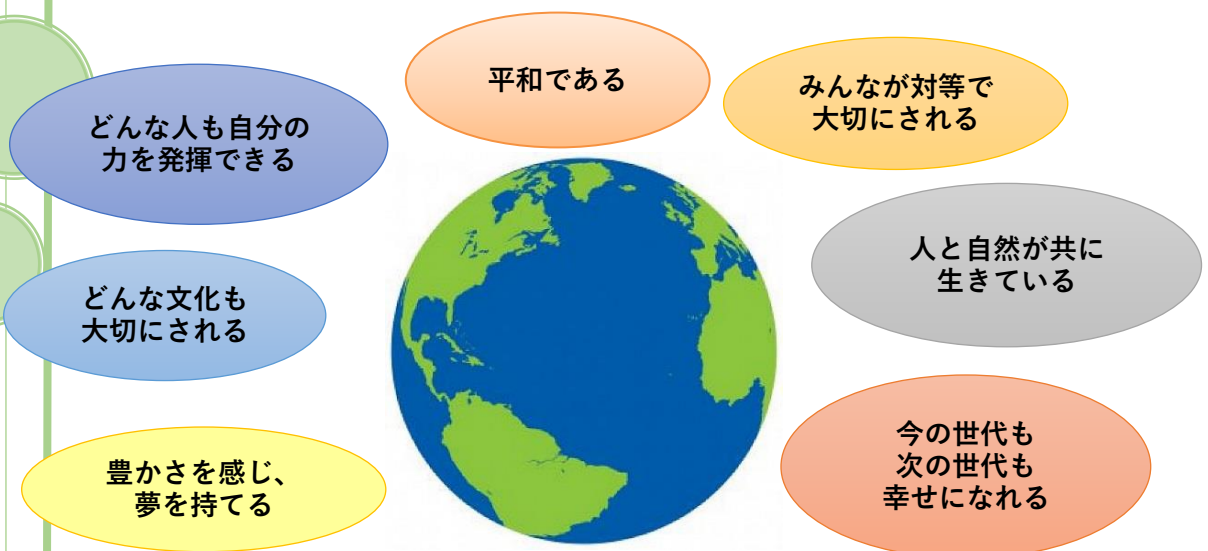
私たちは、生きるための多くの知恵を学校というより、教科書というより、講義というより、それらを含んだ日常のあれこれから学んできたと言ってもいいでしょう。だとしたら、持続可能な社会を構築するための環境づくりを日常的にする我々であることが、持続可能な社会実現のための知恵を多くの人々に広げていくことになるでしょう。そして、それを子どもたちと一緒にすることがよりよい未来を拓いていくとして活動を続けていきます。



理事長 滝 栄一

### 持続可能な社会を実現するために必要な子どもの社会参画

こども N P O がつくりたい持続可能な社会とは・・・



子どもとおとなはパートナー。こんな社会をつくるために、子どもと一緒に活動します。

## ● こどもNPOの事業

子どもたちが持っている自ら育つ力を信じ、自ら行動し、自信を持ち、意欲を持って成長していけるような事業を大人と子どもが力を合わせて実践しています。

### 子どもの社会参画 推進の取り組み

#### 子ども・ユースの声を社会に発信する

「自分たちの気持ちを伝え合おう」をスローガンに子どもの権利条約に関する学びと意見表明に力を入れて活動しました。また、名古屋市の子ども条例について学ぶ機会を持ち、市職員を招いての学習会を行った。緑区区政運営方針「みどりっちプラン」についても子ども・ユースの視点から意見を述べることができました。

#### 大高南学区における子どもの社会参画のモデルづくり

緑区子育て支援ネットワーク連絡会で各団体の強みを活かした協同事業、地域の担い手育成などを提案・実施しており、2012年度から「子どもが育つ地域のつながりづくり事業」を推進し、大高南学区、鳴子学区、鳴海東部学区においてプレーパーク（地域の子どもの遊び場）を増やし、地域の方々とともに場を育ててきました。中でも大高南学区では遊び場だけではなく、学習支援や子ども食堂といった多面的なサポートや子どもたちとの丁寧な関わりを続けています。居心地の良い場で安心して話ができる環境や関係性が育まれたことで、単なる居場所だけではなく、そこで行う取り組みや企画・運営に子どもたちが主体的に参加しようとする姿勢が見られるようになりました。

#### 持続可能な社会づくりの礎となる多様な主体との連携

中川児童館では区や他セクターとの連携を生み出すプロジェクトや社会実験を行い、子どもの社会参画の土台を作りました。様々な協力関係のもと子どもたちは多様な生き様に出会い、自分の役割を軸としてゼロから文化や社会を築いた「中川RPGまつり」を開催、また地域の方々と関わることにより、子どもたちの自主性・社会性・創造性が育まれました。日ごろから児童館では施設運営や事業に子どもたちが主体的にかかわり意見を反映することで社会参画につなげていますが、その原動力となる連携に注力しました。



## 子どもの社会参画の入り口 となる子育て支援事業

子どもには自ら育つ力があるという子ども観や、子どもは権利の主体であるという主権者教育、子どもは社会の一員である市民性教育の必要性を伝え、普及させるために小さな活動の積み重ねや学び合いの機会を作りました。ピンポンハウス（前拠点 2015 年 3 月閉館）や児童館を利用していた乳幼児親子が集まり、「みどり

あかちゃんまつり 0・1・2」では団体の PR を行い、交流の場を自ら企画しました。

緑児童館では「地域ぐるみの子育てを支える担い手講座」を実施し、子育てがひと段落した親、あるいは子育て中の親が「自分にできることはないか？」と声をあげ、活動を始めました。支援される側とする側の垣根のない当事者同士の「相互支援」スタイルがひとつのモデルとなっています。758 キッズステーションでは子どもの権利を軸にしたオリジナルプログラムの検討や子育ての当事者が講座を企画運営する姿も見られ、主体的な活動が芽生えてきています。子どもが育つ環境の中でこうした活動を増やしていくことは、子どもの社会参画を推進するうえで大変有効であり、価値のある取り組みと考えています。

名古屋市では小学生 465 名、中学生 1395 名（2013 年）が「不登校」というネガティブな総称で括られ、地域課題となっていました。学校に行っていない子どもたちが「選択登校」という意思を持った行動ができ、地域で応援できるような「地域の学校 = 子どもの学ぶ権利を保障するための場」づくりを目指し、子どもの参画を基盤に学校運営する場（LARGO ラルゴ）を作りました。

その後 2015 年からは「もうひとつのがっこう こどもとつくる くらし☆あそび☆まなびの場 Roots」を週 5 日運営し、持続可能な社会づくりのための教育・学校づくりへの本格的な活動を開始しました。

同時に基本構想づくりにも着手し、NPO 法人 NIED・国際理解教育センターとともに「理想の学校を創る会」を立ち上げ、学校運営やカリキュラムなどのフレームづくりに関わりました。4 年を経て構想がほぼできあがったことを受け、新団体 NPO 法人あいち惟の森（2018 年 7 月設立予定）への事業移管を決定しました。新学校「オルタナティブスクールあいち惟の森 小学部・中学部」の開校は 2019 年 4 月を予定しています。

## 持続可能な社会づくりのための 教育・学校づくりへの挑戦

## ● 事業報告（1）子どもの社会参画事業

### もうひとつのがっこう

### 子どもとつくる ぐらし☆あそび☆まなびの場 Roots

子どもたちが主体的に学校運営に関わり、自分らしく生き、他者と関わりながら、子どもたちが望む社会、よりよい社会を創造する力を育むことを目的としています。2017年度は時間割を導入し、一人ひとりが個別学習の計画を立て、基礎学習に取り組む基盤を作りました。時間割を導入したことで、基礎学習の取り組みが定着し、「勉強嫌い」だった子どもたちが、学習計画を立てチャレンジでき、学習に関する保護者のニーズにも応えることができました。その他テーマを設けた取り組みや、お互いの気持ちや考えを伝えあえる場づくり（ミーティング）を心掛けました。また、名古屋市社会福祉協議会、一般財団法人ペガサス財団の助成金を活用し、「学びサポーターのしくみづくり」や「基地づくりプロジェクト」に取り組みました。

<実施期間 4月1日～3月31日 のべ参加人数 1,601名>



2014年度から NIED 国際理解教育センターとこどもNPOの有志で立ち上げた任意団体「理想の学校を創る会」での学校づくりの基本構想が完成し、2018年7月（予定）には新団体NPO法人性の森を立ち上げ、実践に向けてスタートします。地域の学校づくりにチャレンジしてきた「こどもとつくるぐらし☆あそび☆まなびの場 Roots」の活動は、2018年10月より新学校「オルタナティブ・スクール性の森」に事業移管し、軌道に乗るまでの間、NIED 国際理解教育センターとこどもNPOが、それぞれにできることで事業サポートを継続していきます。



染め物づくり



秘密基地づくり



初めての卒業式

## 名古屋市緑児童館

0～18歳の居場所として子どもが安全に遊べる場であり、安心して利用できる場をつくること、子どもが「遊びを通じて自ら育つ」事のできる場をつくること、子どもの社会参画のきっかけづくりをすることを目的としています。地域の中で子ども自らが力を発揮できる機会を作れるよう昨年開催した支援者養成講座から自主サークル「わづくり隊」が誕生し、参加する側だった乳幼児の親が、サークル情報冊子作成や赤ちゃん広場での講師など支援者として活動を始めました。

GT学びタイムは試行錯誤ではありますが、スタッフのスキルを活かしたWS等により子どもたちに今起きている社会情勢や国際理解などを考える機会となっています。

<実施期間 4月1日～3月31日 のべ参加人数 41,887名>



緑高校図書部によるお楽しみ会



子ども企画「音楽フェス」



こどものまち会議

## 名古屋市中川児童館

2017年度は「連携」をテーマに事業を展開、つながりを活かした館運営を推進しました。子どもの社会参画につながる事業展開として関連各所と連携した「なかがわ RPG プロジェクト」立ち上げ、年間を通して様々な企画を試み、地縁組織との新たな関係を構築する機会にもなりました。名古屋市教育委員会と協働し「名古屋市図書館による施設管理者と連携した図書館サービスの社会実験」に取り組んだり、地縁組織の様々な会合に積極的に参加し、児童館での事例や課題を伝える機会をつくるなど、現場の意見が直接市政や区政に反映されるよう提言や発信を行いました。

<実施期間 4月1日～3月31日 のべ参加人数 37,792名>



なかがわRPGまつり／実行委員会 自分の持ち味を役割にして、自分たちの世界をつくらう！



## Teens' Café

中高生が主体となって子どもの権利について学び、発信し、また中高生の声が社会に発信される場をつくることで、彼らの声を聴き一緒に社会を変えていく人が増えることを目的としており、『ぼらマッチ!』『愛知サマーセミナー』『みどりっちプラン会議』など外部のイベントやフォーラムに参加することで中高生がエンパワーされ、自分たちの思いや意見を発信することができました。また、多様な立場の人々の話を聴くことで子どもの権利に対する考察が深まりました。新メンバーの募集に1年かけて取り組みましたが、残念ながら新たな中高生の参加には繋がらず、2017年度をもって一時活動休止となりました。

<実施期間 4月1日～3月31日 のべ参加人数 93名>



子どもの権利条約フォーラム2017in信州へ参加



愛知サマーセミナー講座運営

## ● 事業報告（2）子どもの社会参画事業

### 名古屋市子ども・子育て支援センター

名古屋市の地域子育て支援拠点の中核施設として、孤立を防ぎ（予防）、孤立した親子を支え（個別支援）、地域支援拠点と密につながりながら問題解決を図ります。利用者の声に寄り添い、自らの課題を解決する力の土台形成の助力により、利用者同士のグループづくりや自主連続講座の開催を実現。また、子育ての視点を取り入れた講座やパパ向け企画、多国籍親子向け日本語サロンの開設、開設10周年「そとあそび」事業など多くの企画を開催。名古屋市子ども青少年局をはじめ、教育委員会、愛知県等さまざまな行政機関との子育て支援事業の連携を実現しています。

<実施期間 4月1日～3月31日 のべ参加人数 57,517名>



栄のど真ん中で外あそび



パパと赤ちゃんのタッチケア講座



キッズパークの様子

## 子どもが育つ地域のつながりづくり事業

多様な主体（地域住民、ボランティア、学区、関係機関など）と協働し、「地域における子どもの遊び場」「子育て家庭や住民の交流の場」「悩みや困難を抱えた子どもの居場所」を作ることとを目的とし、プレーパーク等の準備、開催を通じて子育てしやすい地域づくり、子どもたちが豊かに育つ地域づくりを目指しています。「サバンナプレーパーク」（大高南地区）、「なるこプレーパーク」（鳴子地区）の定期開催に加えて、「かこがいけプレーパーク」（大高南地区）の特別開催、新規拠点の設置を目指して鳴海東部地区における2回の試行開催を行いました。子どもたちが自らの興味のもと、「やってみよう」と思ったことをやれるような自由な遊び環境を整え、自己実現、自己肯定感の獲得をサポートするような場づくりを心掛けました。

<実施期間 4月1日～3月31日 のべ参加人数 1,151名>



大勢の参加者でにぎわう



薪割りにチャレンジ



植物のツルでなわとび

## 住友理工株式会社協働事業

### シングルのご家庭に贈る安曇野・住友理工の森ふれあいの旅

住友理工（株）、安曇野池田町役場との3者協働により、ひとり親のご家庭を対象とした1泊2日の自然体験機会を提供しました。日常的に子どもが自然体験を積む機会が少ない中、地域の人的資源（高齢者、森林組合の方）や大学生との触れ合いにより、豊かな時間の共有を図ります。親に対しては、普段子どもを育てる中でゆとりが持てない中、同じ立場の親同士がつながりあい、ゆったりとした時間を過ごすことで、ストレス解消とリフレッシュの時間を体感してもらうことができました。

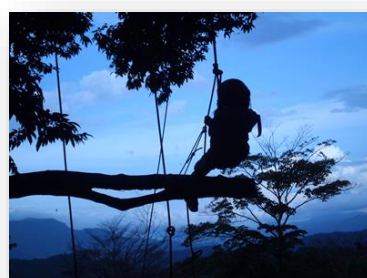
<実施期間 8月19日～20日 のべ参加人数 10名>



プロのもとで間伐作業



初めてのツリークライミング



北アルプスを眺めながら



## ● 事業報告 (3) 子どもの最善の利益を保障する事業

### 名古屋市中学生の学習支援事業 A 型、B 型 (中学生対象)

生活保護世帯、ひとり親家庭、生活困窮者世帯の中学生に対し無料の学習会を開催。児童の学習及び進学意欲を増進し学習習慣が身につくよう支援を行いました。高校進学に向けた支援を行うとともに困難を抱える対象世帯の自立を促進します。保護者の養育支援や子どもの居場所づくりの活動を総合的に実施することで、子どもや家庭が通い続けることができる場や学習をする機会を保障することができました。子ども自身が抱える生きづらさに真摯に向き合い SOS を出せる環境を作りました。

<実施期間 4月1日～3月31日 のべ参加人数 A型1,026名 B型1,388名>

### 名古屋市中学生の学習支援事業 A 型、B 型 (高校生対象)

名古屋市中学生の学習支援事業を利用し、高等学校、高等専門学校、特別支援学校高等部及び高等専修学校へ進学した児童に対して、自主学習の場を提供し高校生活における相談に応じるとともに、学習の場に参加できない児童も含めて近況把握や児童交流の取り組みを行うことで、高校生活への定着を支援し高校中退防止の取り組みを図りました。貧困の連鎖を防止することも目的であり、子どもや家庭が通い続けることができる場を安定実施し学習をする機会を保障しました

<実施期間 4月1日～3月31日 のべ参加人数 A型148名 B型150名>

### 知立市学習サポート事業

様々な要因で学習する環境が整っていない生活保護世帯又は生活困窮者世帯の中学生を対象に学習サポートを実施し、進学意欲を高め、自立に向けた意欲喚起や学習意欲の向上を図るとともに、居場所の提供を通じて日常生活習慣の形成や社会性の育成を行うことを目的とする。子どもや家庭が通い続けることができる場を安定実施し学習する機会を保障しました。子ども自身が抱える生きづらさに真摯に向き合い、SOS を出せる環境を作り出すことができました。学校との情報共有なども定期的に行っています。

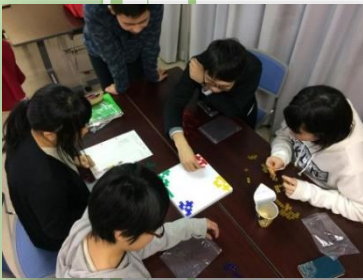
<実施期間 4月1日～3月31日 のべ参加人数 257名>



## 名古屋市子どもの居場所づくりモデル事業

学校等の子どもの集団の中で一般家庭との違いを敏感に感じ取り孤立を深める一方、思春期における家族観の変化から家庭以外の居場所を求める思春期のひとり親家庭の子どもに対して、家庭や学校以外の場所で地域の大人が見守る中で発達し、ひとり親家庭の子ども同士が絆を深めることができる第3の居場所（サードプレイス）を提供しました。参加した子どもが生活習慣や学習習慣を身につけるとともに、自己肯定感の獲得や将来への自立意欲を高め、貧困の連鎖を断ち切る力を身につけることを目的としています。

<実施期間 4月1日～3月31日 のべ参加人数 283名>



子どもの居場所『サバンナきち』 食べたり遊んだり話したりくつろいだり・・・

## 子どもとつくる子ども食堂 ～さばんなかふえ～

『食』を通じて子どもが自分の意志で自由に過ごせる環境を整え、生きる力を育み、自らの力を発揮しながら自己実現・社会参画の機会を得て、健やかに成長することを応援します。子どもが抱える課題へのアウトリーチも兼ねる場となるため、各機関と連携し課題解決につながる機会やしくみを生み出していきます。サバンナプレーパークや学習サポート、サバンナきち、児童館など複数の場に関わる子どもたちの参加が増え、重層的な場づくりと関わりの一翼を担うことができました。

<実施期間 4月1日～3月31日 のべ参加人数 459名>



ビュッフェ形式のごはん

季節の行事も盛り込みます

ボラティアさんに支えられて

子どもの最善の利益を保障する事業では、いずれの事業でも子どもが安心して通い続けることができる場を安定実施することでその機会を保障し、子どもがSOSを出せる環境を作り出すことができました。



## ● 事業報告（４）人材育成事業

### 講師派遣

5/29	地域でつくる子どもの居場所 子ども食堂を学ぼう	豊明市社会福祉協議会	根岸恵子
6/25	地域ではぐくむ子どもたち	中川区民生こども課	根岸恵子
7/17	子どもの権利が守れる地域実現に向けて	大高南学区連絡協議会	山田恭平
8/19	活動の場から見える「子どもの貧困」の実態	あいち保育研究所	本岡恵
8/4～ 2/9	放課後児童支援員に係る都道府県認定資格研修	特定非営利活動法人 市民フォーラム 21	塚本岳 菅沼功
8/28	子どもの権利ってなあに？ わたしたちの『子ども食堂』をもっと理解するために	あいち子ども食堂ネット ワーク連続学習会	山田恭平
11/3	子育て支援講座	とだがわ子どもランド	塚本岳 渡辺宏明
1/28	クラウドファンディングに挑戦！	安城市市民交流センター	新倉春美
1/9、 3/5	保育スタッフ講習	日建学院	本岡恵
2/18	大高南学区でつくる 子どもたちとの取り組みにおける関わり	南生協病院	山田恭平
3/31	「こども×おとな」で未来をつくる 子どもを真ん中においた大高南学区でのまちづくり	南医療生協組合	山田恭平

### 事例報告

5/21	市民サミット 1周年記念イベント	東海市民社会 ネットワーク	滝栄一 加古麻理江
7/29、 30	子どもの権利条約ネットワーク 実行委員会交流会	ちゃいんどふっと	新倉春美 本岡恵
10/1	『学習支援』だからできることを見つめ直して	2017 協同集会 in 東海実行委員会	山田恭平 阿久津幸太郎

## ● 事業報告（５） 調査研究及び政策提言事業

### 理想の学校を創る会サポート事業

子どもにとって最善で、自立と共生を支え合い平和を創り出すための学校（以下、「理想の学校」）を構想し、同じ志を持つ仲間をつなげ、名古屋市およびその周辺地域内で理想の学校の設立をめざしました。2017年度カリキュラムのフレームと内容については、理念や価値観にあったカリキュラム内容を丁寧に構築しました。10月の基本構想発表会には35名の参加者があり、当日講師としてお招きした箕面子どもの森学園の藤田美保校長から「具体的な運営と実施に向けて、一步を踏み出す時」とアドバイスがあり、本格開校に向けて準備を進めました。学校の名称は「オルタナティブ・スクールあいち惟の森 小学部・中学部」に決定し、今後は運営母体となる「NPO法人あいち惟の森」のNPO法人化に向けて準備を進めています。こどもNPOが運営する「こどもとつくる ぐらし☆あそび☆まなびの場 Roots」はあいち惟の森へ事業移管し、2018年10月プレ開校、2019年4月正式開校することが決定しました。新法人設立に伴い、理想の学校を創る会は解散となりますが、あいち惟の森の共同運営団体でもあるNPO法人 NIED・国際理解教育センターとともにサポートを継続していきます。



## ● 2017 年度収支決算

活動計算書

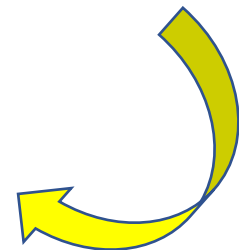
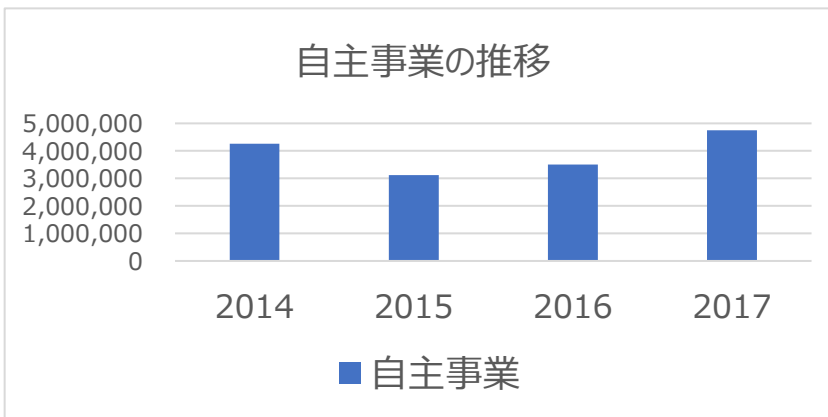
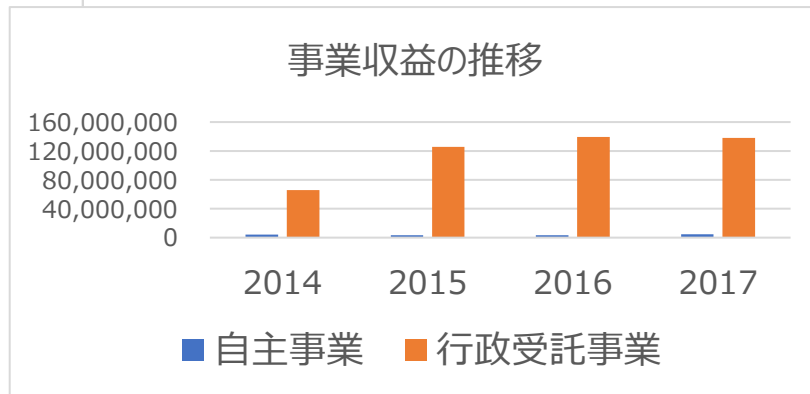
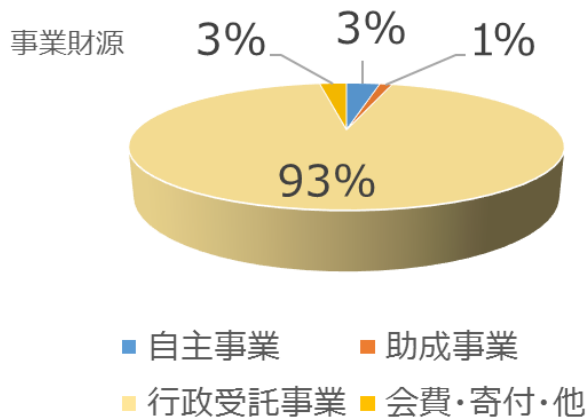
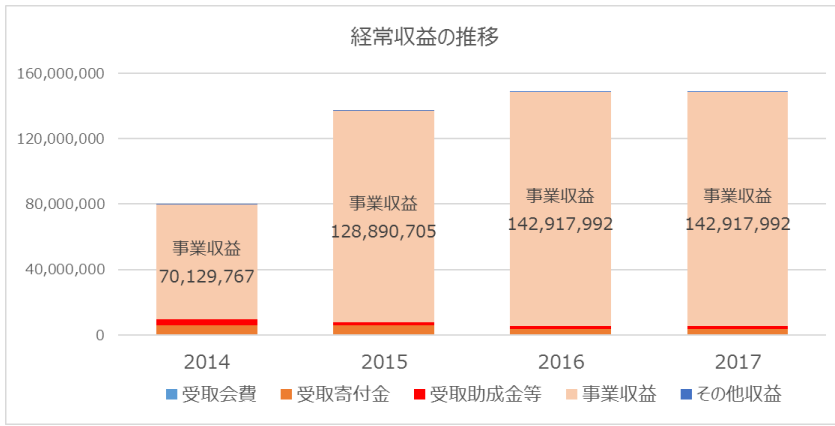
<自 2017 年 4 月 1 日 至 2018 年 3 月 31 日>

経常収益	受取会費	419,000
	受取寄付金	2,122,096
	事業収益	152,452,748
	その他収益	90,610
	経常収益計	156,267,454
経常費用	事業費 人件費	101,009,453
	その他経費	44,355,734
	事業費計	145,365,187
	管理費 人件費	6,545,221
	その他経費	2,142,724
	管理費計	8,687,945
	経常費用計	154,053,132
経常外収益		0
経常外費用		0
税引前当期正味財産増減額		2,214,322
法人税、住民税及び事業税		68,564
当期正味財産増減額		2,145,758
前期繰越正味財産額		22,797,125
時期繰越正味財産額		24,942,883

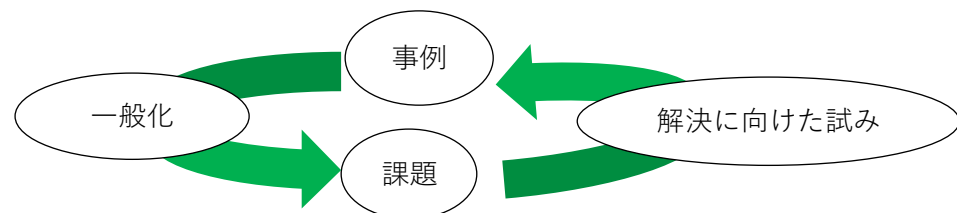
貸借対照表

<2018 年 3 月 31 日現在>

流動資産 現金	173,715	流動負債 未払金	12,975,113
預金	37,831,083	前受金	33,000
(売上債権)	2,276,281	預かり金	707,285
(棚卸資産)	32,340	未払消費税等	2,309,900
(その他流動資産)	77,773	負債の部 合計	16,025,298
固定資産 (有形固定資産)	524,989	正味財産 前期繰越正味財産額	22,797,125
(投資その他の資産)	52,000	当期繰越正味財産額	2,145,758
資産の部 合計	40,968,181	正味財産の部合計	24,942,883
		負債・正味財産合計	40,968,181



私たちは各事業を通して、子どもを取り巻く社会的課題に直面しながら、絶えずその課題に潜む潜在的な背景を考え、解決に向けてアプローチを試みています。そのようなアプローチは本体事業と複合的に展開し、そのなかで先進的な事例が生まれ、提案・提言へとつなげていき、社会に浸透させていく役割を担ってきました。現在、子どもNPOの収入の多くは、公的施設の受託料や指定管理料で占められており、そのような課題解決の糸口となる先進的な試みを生み出す本体事業にかかる資金が枯渇している現状にあります。





# 参加のカタチ

## ★会員として参加★

会員のみなさまには【こどもNPOだより】をお届けします（年4回）

**正会員 会費 5,000円/年**

総会での議決権を持ち、団体運営について直接的にご参加いただけます。

**賛助会員 会費 3,000円/年**

活動理念に賛同し、団体の活動を応援・ご支援いただく会員です。



## ★お買い物で参加★

**イエローレシートキャンペーン**

イオンモール大高（名古屋市緑区）のイエローレシートキャンペーンに登録しています。

毎月11日に発行される黄色いレシートを、こどもNPOのBOXに投函してください。

年間のレシート合計金額の1%にあたる品物がイオンより寄贈されます。



## ★寄付をして参加★

いただいたご寄付は、事業運営、団体運営のために活用させていただきます。

【振込先】 ゆうちょ銀行 00860-2-188302 特定非営利活動法人こどもNPO

ゆうちょ銀行 ○八九支店 当座 0188302 特定非営利活動法人こどもNPO

【東海ろうきん寄付システム】

100円単位で任意の寄付額を設定し、団体を指定して寄付をするシステムです。

口座から自動で引き落とされるので、継続的に団体を応援することができます。

## ★一緒に活動して参加★

- ・イベントに参加する
- ・ボランティアスタッフとして関わる
- ・庭や畑の手入れを手伝う、
- ・会報の印刷&発送作業を手伝う、
- ・子どもにギターを教える など  
興味のあること&得意なことで  
協力してください。

## ★情報シェアで参加★

- ・Facebookでいいね!やシェアをする
- ・ブログやSNSでこどもNPOの活動を紹介する
- ・お友達にこどもNPOの企画を話してみる など  
ぜひ情報発信をお願いします。

応援  
お願いします!

## 特定非営利活動法人こどもNPO

〒458-0818 名古屋市緑区鳴海町字大清水69-1116

☎052-848-7390（電話受付時間 平日9:00~17:30）

Email [office@kodomo-npo.or.jp](mailto:office@kodomo-npo.or.jp)

HP <http://www.kodomo-npo.or.jp>

Facebook <https://www.facebook.com/kodomonpo.nagoya>

